

海禅寺新聞

二〇一八 秋号



Vol.19

海禅寺新聞『第19号』

夏の酷暑。猛烈な台風。そして大地震。私たちの住むこの地球で、何かとてつもなく大きな変化が起こっているという現象は、もう誰の目にも明らかです。そして多くの地域で大変な被害が出ています。一連の自然災害で命を落とされた方々のご冥福をお祈りし、災害からの生活復興を心から願わずにはおられません。

人類が自分たちの利便性を追求してきた結果、大きな地球環境の変化が起こり、それが巡り巡って今度は自分たちを苦しめているという事実。生活が便利になって、実は一番困っているのが人間だという皮肉…。今の便利な生活を全て手放すことは、もちろん難しいことですが、しかし何か原因の元を断つ具体的な行動を、たとえ小さな事であっても、私たち一人一人が始めていかなければ、未来は決して明るいものではないでしょう。

仏教では、過ぎ去った過去に固執することなく、これからやって来る未来を憂うことでもない、ただただ「今」の行いに注視していくことの重要性を説いています。悲観することなく、よりよい未来が来るために、今こそよき種まきを地道にして参りましょう。



生きる力 vol.94 『送付』

「生きる力 vol.94」をご送付します。今回の特集は『お寺の行事に参加しよう お釈迦さまの三大行事』です。仏教を開いたお釈迦さまに由来する大切な3つの行事。

- ① 花まつり（4月8日）ご誕生
- ② 成道会（12月8日）お悟り
- ③ 常楽会（2月15日）ご入滅

海禅寺では檀信徒の皆さまに向けてこうした行事を開催していませんが、実は隣接する芙蓉保育園で、子ども達と行っています。お釈迦さまの一生を通じて「命の誕生」「幸せ」「死」について共に考える時間。毎回子どもたちから多くの気付きを得ることができています。また機会を作り、檀信徒の皆様とも共有してまいります。

秋彼岸会 中日法要のご案内

恒例の秋彼岸会法要を海禅寺本堂にてお勤めいたします。どうぞご家族おそろいでお出かけください。（申込不要）

日程…平成30年9月23日（日）

時間…受付 午前10時～

法要 午前10時半～

※法要終了後は、皆さんで茶話会をいたしましょう。

※彼岸会中日法要の**供養塔婆**をご希望の方は、19日（水）夕刻までに電話またはファックスで、寺にお申し込みください。

（供養塔婆料 一基 3000円）
 電話…0268・22・2972
 Fax…0268・26・1147



大切な人を亡くした悲しみを分かち合う集い

かけがえのないご家族、または無二の親友をはじめとする大切な方と死別することほど、辛い出来事はありません…。

しかしどれだけ辛く悲しくても、私たちは命がある限り、日々の日常を生きていかなくてはなりません。こうした苦しみを抱えているのは決してあなただけではありません。仏さまのいる寺で、そうした思いを語り合いませんか？言葉にすることが辛い方は、他の方のお話を聞くだけでも結構です。どうぞお出かけください。

日程…平成30年9月24日（月）

時間…午後3時～5時

内容…①お勤め
 ②語る時間
 ③まとめの時間



料金…3000円（茶菓子代）

持ち物…特にありません

申込…電話またはファックスで、寺にお申し込みください。

告知 絵画教室

自分の手でセンチタングル編

9月に開催し大好評だったこの絵画教室。講師の先生をお招きし、自分の手を題材に、ペンと紙で「センチタングル」という技法で絵を描きます。絵の技術は必要ありません。静かな本堂で黙々と線を引く時間『描く瞑想』といった趣の不思議な心地よさを体験できます。ご自身のあれこれと向き合いながら集中した後は、作品と共に清々しさをお持ち帰りいただけます。

※「センチタングル」＝「セン」は「禅」の意味。

「タングル」は「絡まる」という意味の造語です。固定観念にとらわれないアートの一種です。



前回の様子です。芸術の秋にぜひご参加ください。

日程…平成30年10月7日（日）

時間…午後1時～午後3時

料金…1500円（材料費含）

定員…15名（先着順で受け付けます）

申込…電話またはファックスで、寺にお申し込みください。

◎講師…ムツシュさん（日本人）

高遠町在住アーティスト。武蔵野美術大学中退。5年前から線維筋痛症に罹り、闘病しながら芸術活動を続けている。

海禅寺数珠つなぎ

海禅寺にかかわる皆さんの声を、お数珠のようにつなげ、ご紹介していきます

清野たいやき店

店主 関 信也さん

7人目



今回は海禅寺のある新田地域が誇る名店『清野たいやき店』のご主人が登場です。お忙しい時間の合間を縫って、取材に応じてくださいました。(聞き書き・副住職)

海禅寺の参道

を下つて門前すぐ近くにある『清野たいやき店』。創業は明治期まで遡ります。近隣の新田住民のみならず、広く上田市に愛されている鯛焼き屋の老舗。元々は上田駅前にあった「ますりん」(漢字表記不明)という店舗内で行っていた鯛焼き販売が機縁となり、東京から来た藤沢さんという方が鯛焼き販売の権利を譲り受け、現在の場所『藤沢商店』として商売を始めたと伝えられています。そして東京オリピックの年、1964年に現店主、関さんの義理の叔父である清野さんが店舗を受け継ぎ、『清野たいやき店』が鯛焼き専門店として営業を開始しました。当時は手鍋で餡を作り、炭火で焼いていたそうです。関さんは少年期より、叔父さんがお客様の声に耳を傾けながら懸命に鯛焼きを焼く姿を見て、憧れの気持ちを抱いていたそうです。そんな思いから、会社勤めをしながら45歳の頃、鯛焼き屋の見習いをしたこともありました。



関東圏を中心に転勤を重ね、忙しく働いていた関さん。しかし家庭の事情で、会社を早期退職することになりました。ちょうど

どの頃、叔父である2代目の清野さんが高齡から店を閉めるといふ話が耳に入りました。それではと鯛焼き店を継ぐことを決意したのです。平成20年11月から約2ヶ月程、清野さんから鯛焼きの技術を習い、そして平成21年の1月より、3代目の店主となりました。店名の『清野たいやき店』の「清野」は、関さんの代になっても変えることは一切考えなかったそうです。それは、地元で親しまれ定着しているこの看板名は、これそのものが財産であると感じているから。関さん自身、愛着をもって店名を大切にしています。

さて、肝心の鯛焼きですが、そもそも鯛焼きとは、明治期に東京は麻布十番にある「浪花屋」という和菓子店が考案したことがはじまりだとされています。明治時代末期の文学作品や当時の新聞記事には、「鯛焼」という記述が散見されます。

しかし現在、大型ショッピングセンターや高速道路のパーキングエリアで売られている鯛焼きは、当時のものとはだいぶ違い、現代風に作り替えられています。生地には様々な添加物などが調合されたミックス粉を使い、中身は餡以外に多様な食材が入れられています。また鯛焼き機は、誰でも焼きやすいように改良されたものが大半だそうです。しかしその分、失ってしまった焼きた味があるようで。今風の生地と機械で焼かれた鯛焼きは、フワフワ感があると言えは聞こえがいいですが、コシがなく、物足りないものになっています。

これに対して清野たいやき店では一貫して「昔ながらの鯛焼き」にこだわっています。まず生地は小麦粉と膨張剤のみ。生地作りは繊細さを要し、小麦粉本来の味わいが出るよう心を砕いています。焼き機は先代清野さんから受け継いだ、昔ながらの

金型のもの。当然、高い技術が求められます。この金型機械の一番の良さは、鯛焼きに圧力を加えながら焼き上げることができるところにあります。この焼き機で焼き締めた鯛焼きの味の旨味は、何とも言えませんが、それでも探求心から関さんは、かつて自分の生地を現代の鯛焼き機で焼いてみたことがあるそうです。ところが、あまりに味わいが素っ気ないものになってしまい、心底驚いたとおっしゃっていました。やはり伝統の道具というのは、焼き手のコツや手間が必要な分、それに付随する代え難い味の価値があるのです。また鯛焼きに入れる餡はもちろん、自家製の餡を使っています。先代が作り上げた餡をベースに、砂糖の種類と調合に工夫をし、誰もが食べやすいように甘さを控えめにし、味を整えています。

昔ながらの鯛焼きを、小豆餡一本でやっていきたいという思いで頑張ってきましたが、4年前から常連さんの中で、特に女性やお子さんのリクエストが多数あり、クリーム鯛焼きも始めました。(クリームは外注)しかし関さんはこう言います。「食べるものが豊富にある今だからこそ、昔ながらの素朴な中にある、豊かな味の世界を多くの人に味わって欲しい」と。

海禅寺駐車場から、徒歩でわずか1、2分で立ち寄れる「清野たいやき店」。お寺にお越しの際に、ぜひご賞味ください。



一匹 120円

「昔ながらのたいやき」『清野たいやき店』

電話：0268-22-6828

住所：上田市中央北1-1-7

営業時間：午前9時半～午後5時

※売り切れの場合、早めに閉めることもありませす。焼きたてをお召し上がり頂くために電話予約をおススメしています。

定休日：毎週火曜日と第1、第3月曜日

HP <http://www.taiyakiten.com>

「海禅寺サロン」

「予告 尊厳死を考える」

尊厳死とは？回復の見込みがなく、すぐにも命の灯が消え去ろうとしているときでも、現代の医療は、あなたを生かし続けることが可能です。人工呼吸器をつけて体内に酸素を送り込み、胃に穴をあける胃ろうを装着して栄養を摂取させます。ひとたびこれらの延命措置を始めたならば、はずすことは容易ではありません。生命維持装置をはずせば死に至ることが明らかですから、医師がはずしたがらないのです。「あらゆる手段を使って生きたい」と思っている多くの方々の意思も、尊重されるべきことです。一方、チューブや機械につながれて、なお辛い闘病を強いられ、「回復の見込みがないのなら、安らかにその時を迎えたい」と思っている方々も多数いらっしゃいます。「平穏死」「自然死」を望む方々が、自分の意思を元氣なうちに記しておく。それが尊厳死です。

※日本尊厳死協会ホームページより

日程：平成30年11月10日(土)

時間：午後2時～

料金：無料

会場：海禅寺 本堂

主催：認定NPO法人「新田の風」

※詳しい内容については、9月中旬にチラシが完成しますので、お申し出ください。